



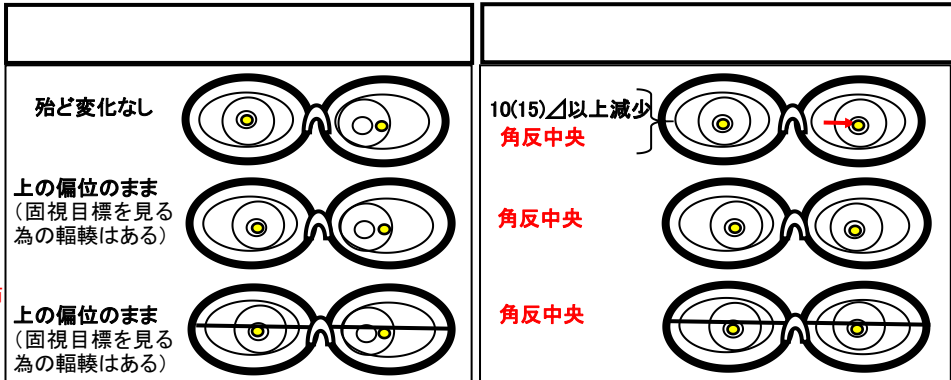
空欄に内斜視の種類を記入!

例) 左眼内斜視

遠見 正視状態
完全矯正レンズ装用

近見 +3D 調節
完全矯正レンズ装用

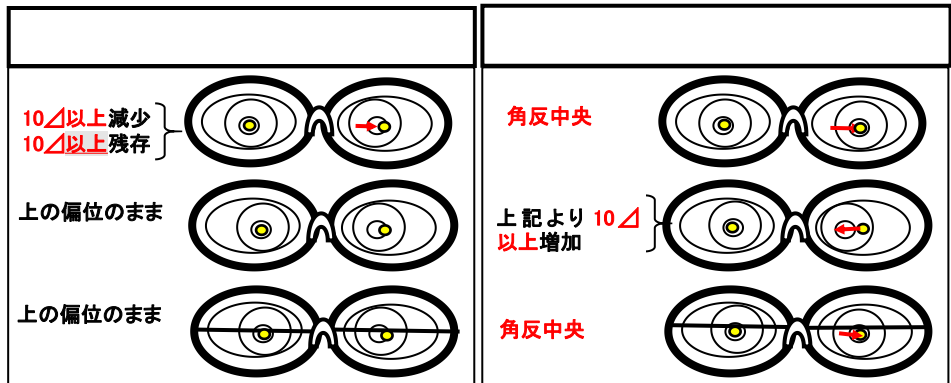
近見 近見で無調節
+3.0D 付加レンズ装用



遠見 完全矯正レンズ装用

近見 +3D 調節
完全矯正レンズ装用

近見 近見で無調節
+3.0D 付加レンズ装用



定義が曖昧なもの

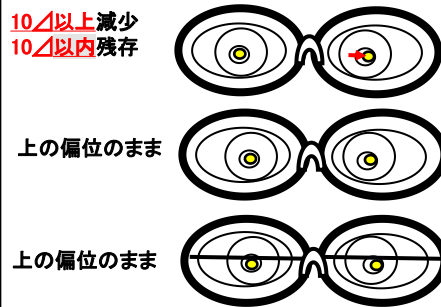
von Noorden・欧米の成書

日本

遠見 完全矯正レンズ装用

近見 +3D 調節
完全矯正レンズ装用

近見 近見で無調節
+3.0D 付加レンズ装用





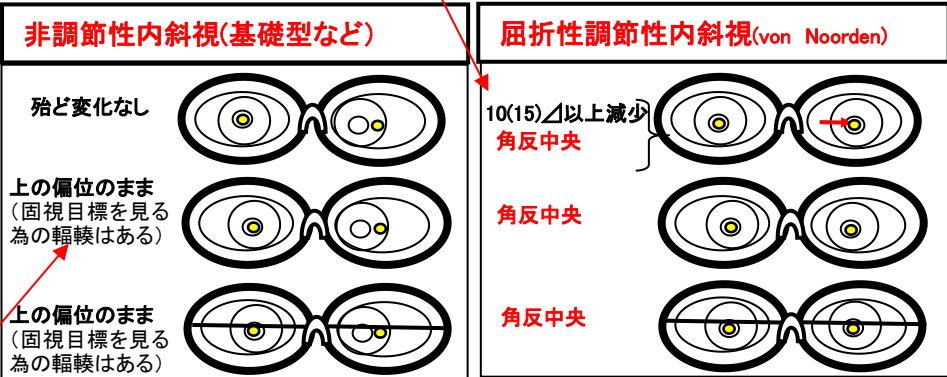
遠視がある場合は10~15Δ減少しても高AC/A比の可能性があり遠近ともほぼ同量減少し、眼位が改善するかで判断すること。

例) 左眼内斜視

遠見 正視状態
完全矯正レンズ装用

近見 +3D 調節
完全矯正レンズ装用

近見 近見で無調節
+3.0D 付加レンズ装用



近見は輻輳するので(輻輳角分)遠見より見かけ上、内斜してプリズム量が増加すると勘違いする人がいるが、近見の視標を見ている視線からの偏位となるので、偏位量は変わらず APCT の量としては理論上変化はない。

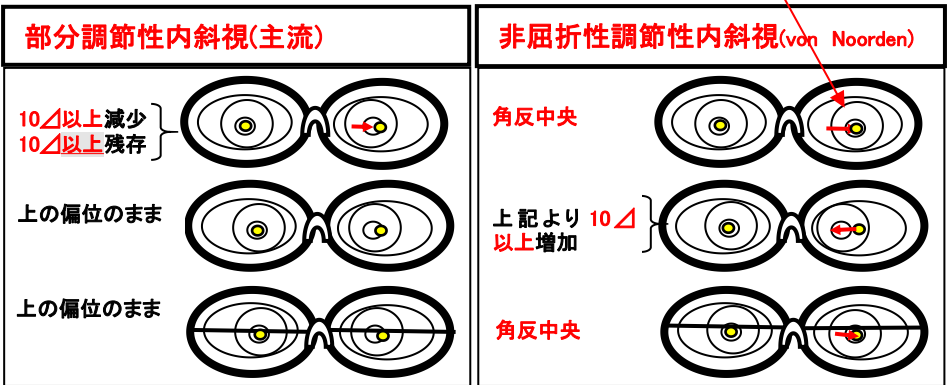


高 AC/A 比ならば、遠視があつて内斜視となつていた分は完全矯正レンズで解消するはず。

遠見 完全矯正レンズ装用

近見 +3D 調節
完全矯正レンズ装用

近見 近見で無調節
+3.0D 付加レンズ装用

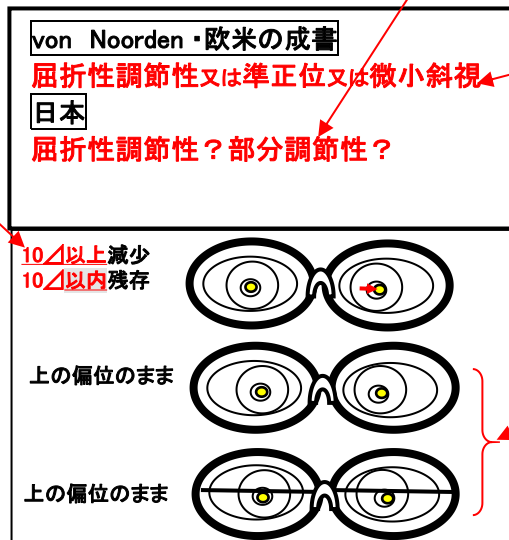


定義が曖昧なもの



この要素がないと調節因子ではない。例) 15Δで眼鏡にて6Δになった場合は調節性とは言えない。

見解が一致していない



欧米は大まか



近見の所見から少なくとも高 AC/A 比ではないので、非屈折性調節性内斜視ではない。